

# 業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2020. 3. 14

No. 6 2 8

## 2020春闘交渉 最終回答

3月13日、本部は2020春闘最終回答を受けました。以下、報告します。

会社・昇給額表に記載している等級及び評価に応じた昇給を実施するとともに、200円を加えることとする。

組合・要求額とは乖離が大きく回答内容は到底納得できない。しかしながら、中期経営計画2023初年度にあたる今年度は、昨年度に引き続き大規模な自然災害や、消費税10%引き上げ等の影響で営業収益が伸び悩み、経常利益97億円の計画から大きく下方修正した。また、来年度事業計画においても、中期経営計画2023より下方修正しており、さらに新型コロナウイルスの影響で先行きの見通しが全く見えない状況となっている。

会社の厳しい状況は理解しつつも、要求額とは乖離があり大変不服であるが、このような状況下での、3年連続ベア実施を評価し、席上妥結とする。

※新人事制度からは、「ベア」という表現を変えて回答されました。

※諸要求については別途。

---

## 回 答 書

2020年3月13日  
日本貨物鉄道株式会社

2019年度の当社は「JR貨物グループ 中期経営計画 2021」の施策の具体化を中心とした見直しを行い、「JR貨物グループ 中期経営計画 2023」を策定して、更なる成長と発展に向けた具体策を実行してまいりました。

加えて、会社の発展の原動力である社員一人ひとりの持つ能力と意欲を最大限に発揮することが会社の持続的な発展につながるとの考え方のもと、昨年4月1日に新たな人事制度を導入するとともに、定着させるための取り組みを進めてきました。

このように、JR貨物グループの持続的な発展に向けて着実に取り組んできたところですが、9月から10月にかけて相次ぐ台風の接近・上陸により、大きな輸送障害が続きました。特に台風19号による大雨では、東北線、武蔵野線、中央線が長期にわたり不通となり、社員の皆さんの尽力によりトラック・船舶による代行輸送や迂回運転に取り組みましたが、大幅な減収を余儀なくされました。下半期は、消費税率引き上げ、米中貿易摩擦等の影響で荷動きが悪く、輸送量が対前年マイナスとなり、鉄道事業は赤字の年度計画に改定せざるを得ない等、極めて厳しい経営状況に直面しました。

2020年度のが国経済は、海外の政治・経済情勢や消費税率引き上げ後の消費の落ち込み、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済活動の停滞やインバウンド消費の低迷等により、景気の減速が懸念されています。

このような状況のもと、当社は貨物鉄道事業の役割を発揮して、更なる収益性向上に努めて、鉄道事業を黒字として連結経常利益100億円以上の達成を目指していくとともに、今般竣工した「東京レールゲートWEST」を活用するなど「鉄道を基軸とした総合物流企業グループ」へと進化していかなければなりません。

社員の皆さんには、当社を取り巻く厳しい現状を十分に理解していただき、会社の更なる成長と発展に向け、「Challenge and Change ～挑戦、そして変革～」の精神で、歩みを止めることなく共に進んでいくことを期待します。

会社としても皆さんの安全・安定輸送の確保や災害対応のための取組み等を踏まえ、物価上昇に対する生活向上も考慮しつつ、今後の奮闘に期待し、2020年度の新賃金については、昨年、一昨年のベアに引き続き、以下の通り実施することといたしました。

昇給額表に記載している等級及び評価に応じた昇給を実施するとともに、200円を加えることとします。全社員一丸となり、頑張りましょう。

以 上

---

2020年4月1日 賃金加算 諸元 (推計)

日本貨物鉄道株式会社

1. 社員数 (貨物会社帰属)	5, 413人
2. 平均年齢	38.4歳
3. 平均勤続	17.7年
4. 平均基準内賃金	
(1)基本給	263,628円
(2)都市手当及び職務手当	26,404円

(参考)

昇給額表による昇給額	4,275円
	(1.68%)

以上

---